

用語解説

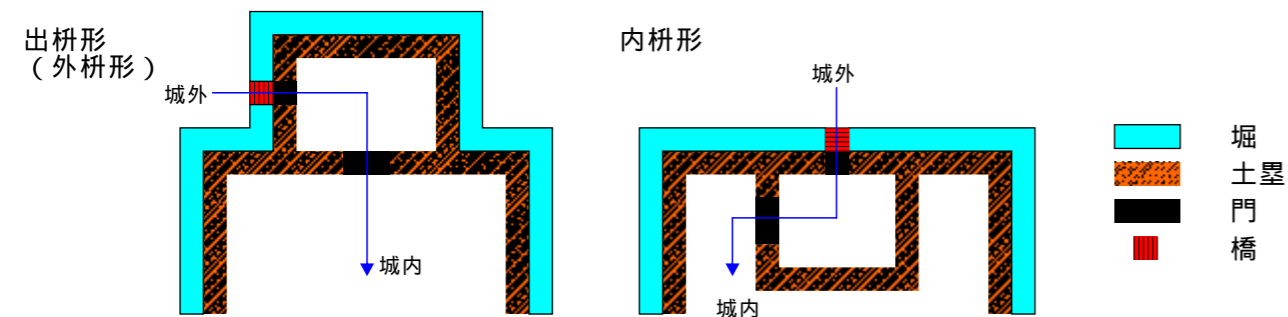
【土塁】（どるい）

堤状の盛土。近世城郭では内外とも石垣を築き、崩落を防止することが多い。加納城本丸の周囲には長さ約600mが残っている。

【枡形】（ますがた）

城の出入り口に設けられた防御施設で、近世城郭で多用される。2つの門の間に四角形の広場を造り、隣り合う辺にそれぞれ門を配置する。外側の門は「高麗門」、内側の門は「櫓門」を建てることが多い。枡形が外に突出したものを「出枡形（外枡形）」、内側に入り込んだものを「内枡形」という。

出枡形は、徳川系城郭でも初期のものに多く、中でも加納城はその初現にあたることから、「加納城型」ともいわれている。他の例は水口城（滋賀県）、二条城（京都府）など。



【櫓門】（やぐらもん）

門の上に櫓（建物）をのせた構造の門。門の上から迎撃ができるため、防御性が高い。西日本の場合、門の両脇に石垣を造り、櫓自体は土塁の上になっていることが多い。その場合、門の柱は石垣の下に、櫓の柱は石垣の上に立てていた。

絵図を見る限り、加納城本丸大手の櫓門もこのような構造で、門の部分の大きさは東西3間、南北5間、櫓の部分は南北7間と見られる。

【高麗門】（こうらいもん）

上から見たとき「コ」字形に屋根を架けた城門。柱は4本ある。扉が閉まっても、開いても雨に濡れない。また控の柱があるため、転倒しにくい。



丸亀城櫓門



江戸城高麗門（内側から）

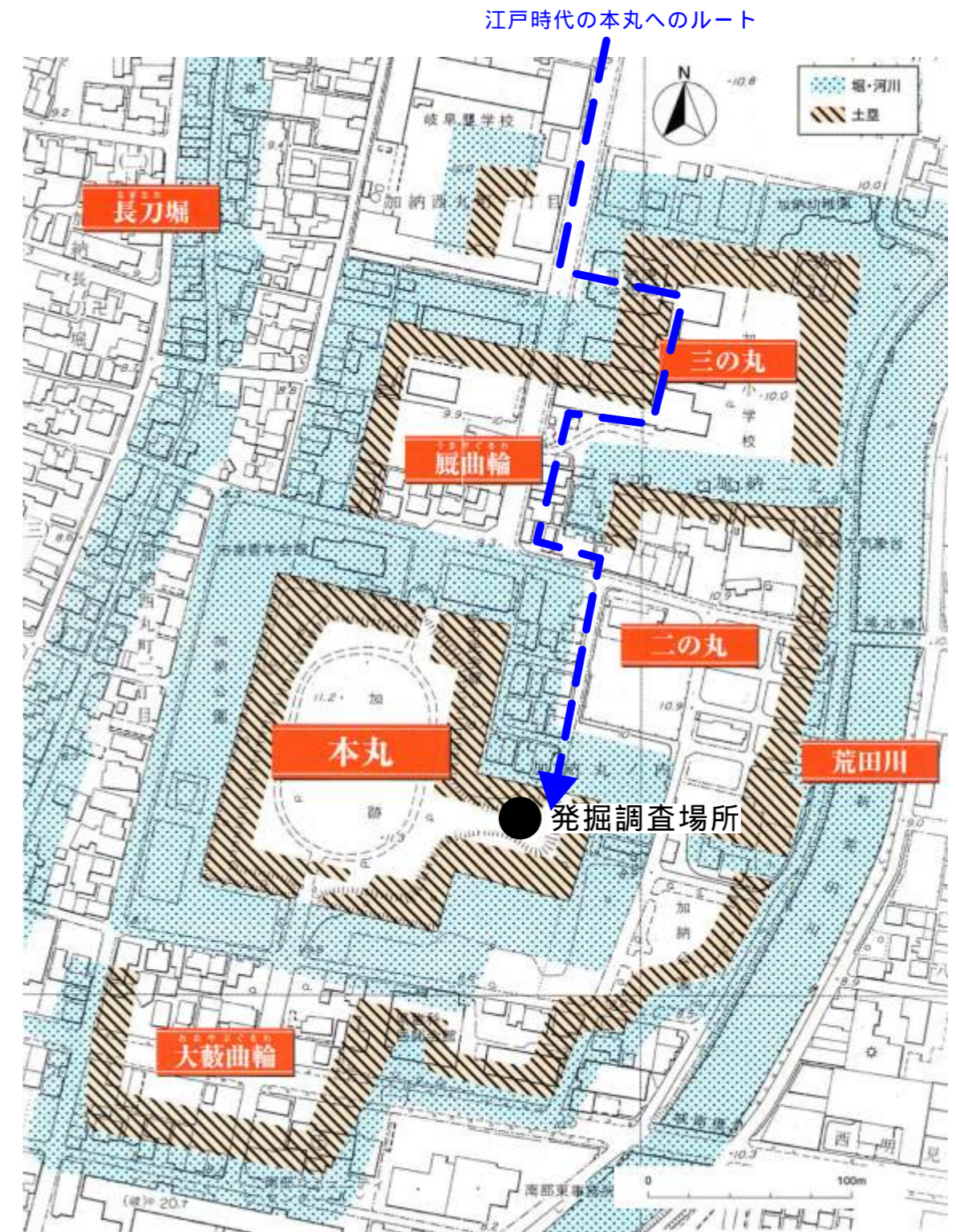
【お問い合わせ先】

岐阜市教育委員会 社会教育課 058-265-4141 (内線6357)
(財) 岐市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所
058-241-8122 URL <http://www.gifu-gifu.ed.jp/org/mabun/>

加納城跡発掘調査現場公開資料

何はともあれ、「加納の日」

平成20年11月22日(土)
13:00 ~ 16:00



岐阜市教育委員会
(財) 岐市教育文化振興事業団



石垣と集水枡

この東西方向の石垣は、櫓門北辺の石垣に続くものです。西端でL字形に北へ折れ、土塁の上に向かって上っていきます。これより西は階段と見られますが、ほとんどの石が抜き取られています。石垣の前には板状の石を口字形に組んだものが見つかりました。櫓門の北端のすぐ西にあり、門の位置から推定すると、雨水などを導いた集水枡と考えられます。



高麗門の跡

枡形西辺の石垣より1.5m程東で礎石状の川原石が見つかりました。石の基礎となる盛土中には瓦が入っており、江戸時代のある時期に建て直された可能性が高いです。絵図によると門の間口は4m程度のもので、川原石が柱を支えた礎石だとすると、高麗門はかなり西に寄った所にあったことになります。

